

未来ノート

-202Xの君へ-

サーフィン
いがらし
五十嵐カノア

始まりはハワイ

国境を超えた夢

チームジャパン

五輪のスターに

父に憧れ 3歳から練習

五十嵐カノア(21)は木下グループに生まれたときからサーフィンをする運命だったのかもしれない。ハワイの言葉で「自由」を意味する名前の由来を、自らもサーファーの父・勉さん(54)はこう説明する。

「世界で活躍する子に育

ってほしかった。ハワイだと部外者は波に乗らせない文化もあるけど、カノアって名前なら地元の子と間違えてサーフィンできちゃうかも、と思って」

父の願い通り、息子がサーフィンを始めたのは3歳の誕生日に家族で出かけた



①サーフボードを持つ幼少期のカノア(前列右)と弟のキアヌ(前列左)

②昨年9月、愛知であった世界選手権で銀メダルを獲得した五十嵐カノア



ハワイ旅行。サーフショップに置いてあった750ドルの黄色のボードに釘付けになった。「父を見て、面白そうと思った。かっこいい、僕もほしいって」

勉さんは「高いなあ。本当にやるのかなあ」と内心思っていた。でも、父の姿に憧れていた息子は「絶対やる」と動かない。始めたその日のうちにボードの上に立ち、父を驚かせた。

勉さんの指導方針はシンプルだった。とにかく楽しませる。「3歳の小さい子どもだから、怖がらせちゃいけない。おなががすいたり、水が冷たいとトイレに行きたくなったりもするから、なるべく練習に集中する準備をした」

自宅があるのはサーフィンの聖地といわれるカリフ

オルニアのハンティントンビーチ。過去11度世界王者になったケリー・スレーター(米)ら腕利きのサーファーが集う環境が目の前にあった。「遊ぶ時間は海の中、そんな感じだった」

幼少期の過ごし方を尋ねると、すらすらと時間が出てきた。学校は午前8時35分に始まり、終わるのは午後2時38分。「42分に車に乗って、53分にはスーツに着替えていた。冬は暗くなるのは午後5時43分。波に乗る時間を僕は全部覚えていた。それくらい、楽しみな時間だったから」。めきめきと実力を伸ばし、11歳のとき、全米のアマチュア大会で年間30勝の最多記録を樹立。米国で注目を集める存在になった。

(照屋健)

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。